

八幡山

近江八幡の町のすぐ北にある標高 272m の八幡山は、商都として栄える町へと発展するきっかけとなった城跡である。1585 年、武将の豊臣秀吉（1537-1598）は甥の秀次（1568-1595）に命じて、この山に城を築き、その下に八幡（現在の近江八幡市）の町を発展させたのである。しかしその後、秀次は失脚し、1595 年に自害を余儀なくされた。町が栄える一方で、八幡山城は廃城となり、現在では石垣の名残がわずかに残るのみである。八幡山ロープウェイで行ける山頂には城跡のほか、秀次の母が息子を偲んで創建し、1961 年に移築された瑞龍寺がある。また、琵琶湖や近江八幡の町並み、周辺ののどかな風景を一望できる展望台もあり、遊歩道が整備されている。